

こんな目かあ

むかし、ひとりの炭焼きが、山小屋に泊まって働いていました。

ある晩おそく、およめさんが炭焼きを迎えにきました。およめさんは、

「おばあさんが病気になったので、すぐに帰ってください」といいました。炭焼きはあわてて、およめさんといっしょに帰っていきました。帰るとちゅうの道で、炭焼きがおよめさんに、

「おい、おまえ、知っているか。このあたりに化けものが出るって聞いたことがあるぞ。

そいつ、声をかけたらふり返って、大きい目をむくんだそうだ」といいました。

さきを歩いていたおよめさんは、それを聞くと炭焼きをふり返って、

「こんな目かあ」といって、大きい目をむきました。

炭焼きは、へたへたと、すわりこんでしまいました。

おしまい

原話：『奈良県吉野郡昔話集』國學院大學説話研究会

再話：村上郁